

農業遺産を活用した 地域活性化

2025年11月7日

八木信行

東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授
農林水産省 世界農業遺産等専門家会議委員長
FAO世界農業遺産SAG委員(2019-23年、22年議長)

国連食糧農業機関(FAO)

(Food and Agriculture Organization of the United Nations)

本部：ローマ



写真：八木信行

世界農業遺産 (GIAHS)とは？

(Globally Important Agricultural Heritage Systems)



世界的に

重要な

農林水産業

遺産

システム

世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに関わる文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが一体となったシステムを、国際連合食糧農業機関 (FAO) が認定する制度 (出典: 農水省資料を筆者一部改編)



Food and Agriculture
Organization of the
United Nations

Globally Important
AGRICULTURAL
HERITAGE
Systems



GIAHS

Globally Important Agricultural
Heritage Systems



世界遺産と世界農業遺産の違いは？

■世界自然遺産・世界文化遺産

- ・UNESCO(国連科学教育文化機関)が実施。
- ・遺跡や歴史的建造物、自然など「**有形の不動産**」を登録、保護・保存するもの。



■世界農業遺産(GIAHS)

- ・FAO(国連食糧農業機関)が実施。
- ・次世代に継承すべき伝統的な「**無形の農林水産業システム**」を認定し、その保全と持続的な利用を図るもの。
- ・動的な保全(Dynamic Conservation)が特徴



農業遺産のメリットとは？

- 自動的にには製品の単価は上がらない
- しかし地域の良さを対外的に発信できるため、「関係性価値」向上が目指せる
- 外に向けてブランド化するだけでなく、地域内の一体感や関係者の結束も向上
- 今まで気がついていなかった地域の良さを再発見。地域の価値を守ることにつながる



フィリピンのイフガオ棚田群

ユネスコ世界遺産で、同時にFAO世界農業遺産

コメ産地はどこも困っている！

Photo by Yagi



Photo by Yagi



耕作放棄された棚田

伝統を守ることは難しい！

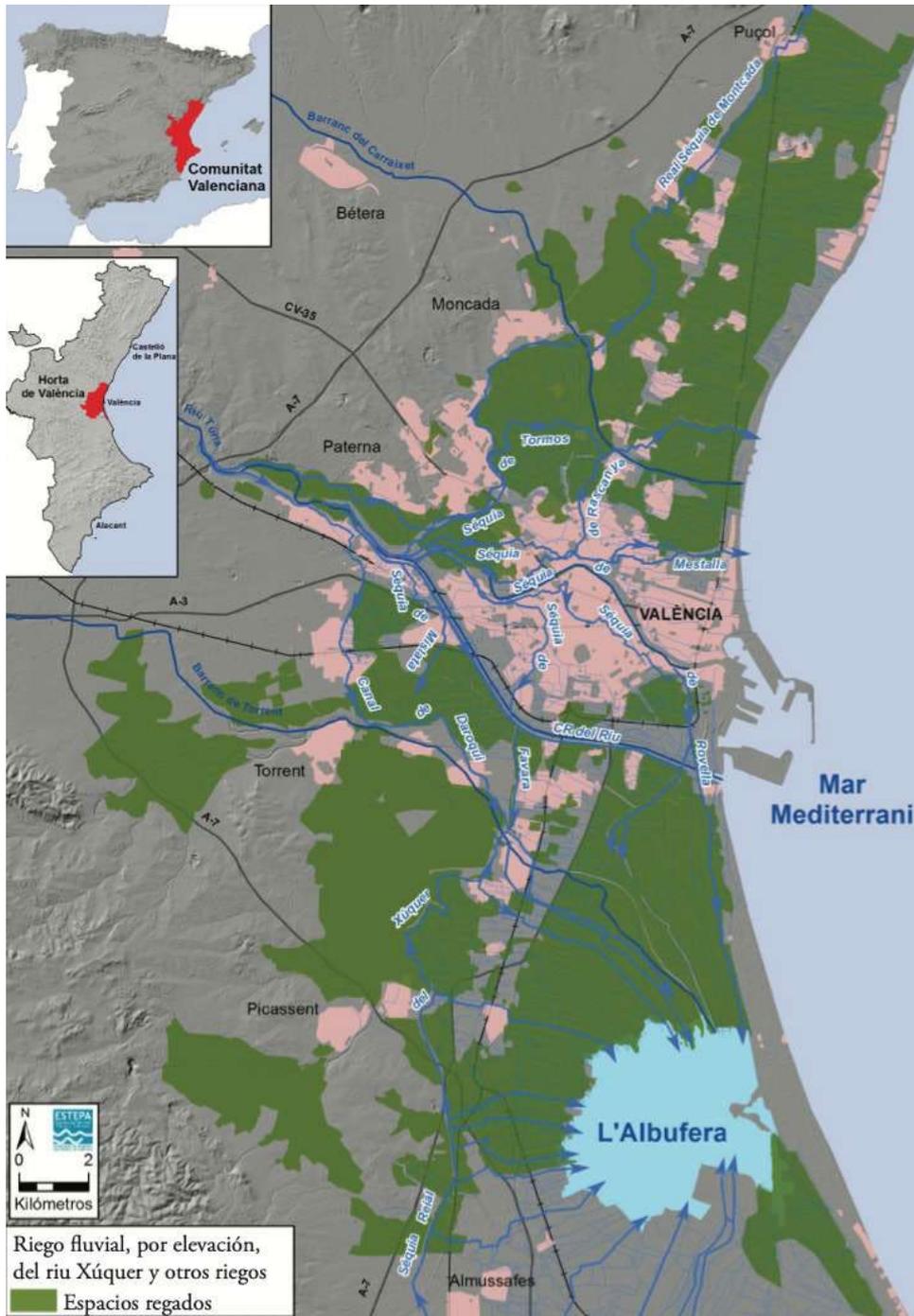
Photo by Yagi

なぜ伝統を守るのか？

スペイン バレンシアの例

- 2019年FAOの世界農業遺産に認定
- 水田・湖・内水面漁協・伝統野菜と灌漑

(地図出典: スペインがFAOに提出した申請書から抜粋)



スペイン:バレンシア市街の様子 観光にも力を入れている



(Photo by Yagi)

バレンシア市内の 科学博物館



(Photo by Yagi)

Historical Irrigation System at l'horta de Valencia (バレンシア野菜栽培地域の歴史的灌漑システム)



(写真出典: スペインがFAOに
提出した申請書から抜粋)

バレンシアの灌漑水路は1250年代から管理継続 (この写真の場所は世界農業遺産の地域)



上：アンティチョーク畑、右：灌漑設備と関係者
(Photo by Yagi)

「近代建築は真似されてしまおうが、伝統は真似できない」

下流には水田もある！



上の写真：水田にフラミンゴが群れで歩いている様子 (Photo by Yagi)

収穫したコメは地元で精米



(Photos by Yagi)

当地はパエリア発祥の地(伝統食) 人気のコメはボンバ(コシヒカリ)



(Photos by Yagi)

生産「システム」の良さが消費者に
伝わることで、はじめて展開が開ける



(Photo by Yagi)



(Photo by Yagi)

左のM印(千年木)は17ユーロ(3,000円)
左のC印(品種名)は12ユーロ(2,100円)
味は変わらないが生産「システム」が違う



(Photos by Yagi)

スペインSénia地区の古木オリーブ 2018年に世界農業遺産認定

- 樹齡2000年以上のものが大量に分布
- フェニキア人→ローマ人→ムーア人→アラゴン・カタルニア・バレンシア→スペイン、と変遷しても守られてきた
- しかし今、高齡化・過疎化が深刻

(地図出典: スペインがFAOに提出した申請書から抜粋)

みなべ・田辺の梅システム 2015年にFAO世界農業遺産認定

(画像出典:みなべ・田辺世界農業遺産推進協議会:FAO提出文書より)

梅システム概略図

梅の生産量は
年間4万4千トンで
国内シェアの55%

地元では当たり前前のが、国際的な場（FAO）
で評価を受けることはよくあること



↑苗木を地域内で作るシステム
がある

←ミツバチとの共存関係

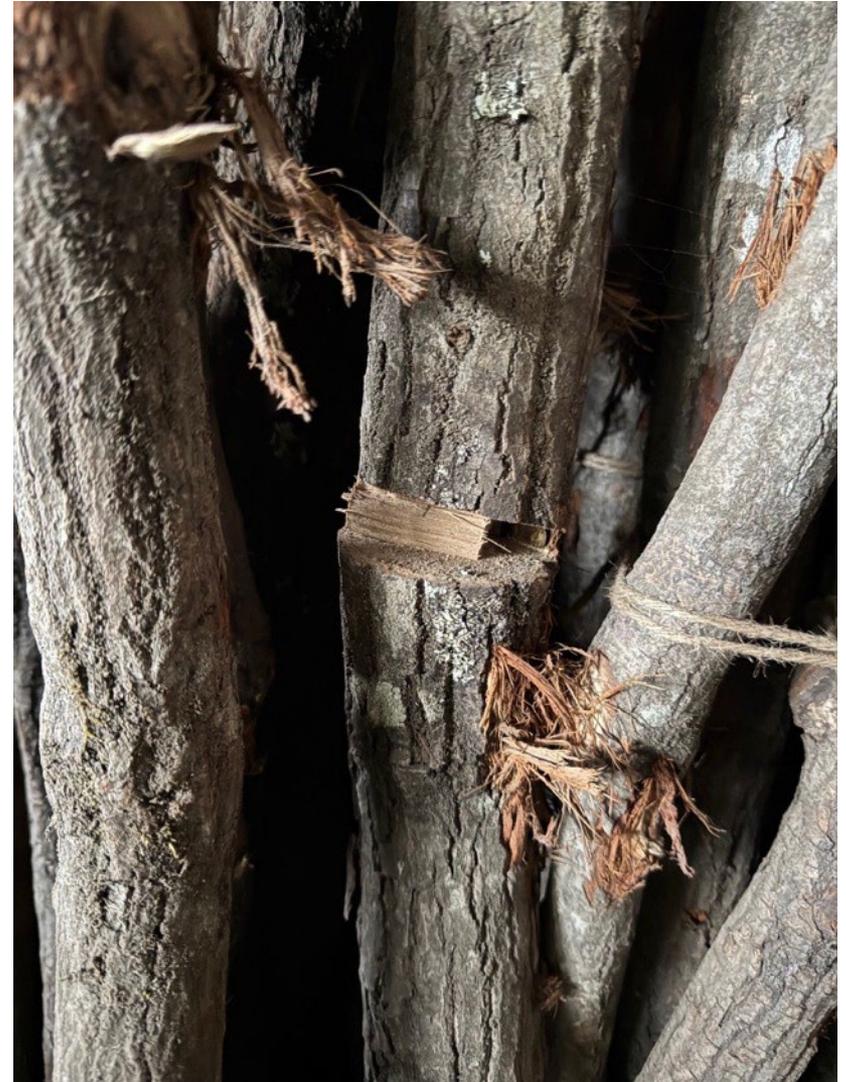
画像出典：https://www.tanabe-ume.jp/wpsys/wp-content/uploads/2021/04/kisyu_tanabe_no_ume_2021.pdf

備長炭は白炭(しろずみ)で、世界的に見てもユニーク(世界ではくろずみが普通)

手の込んだ択抜方式で 里山の生産性や生物多様性を守る

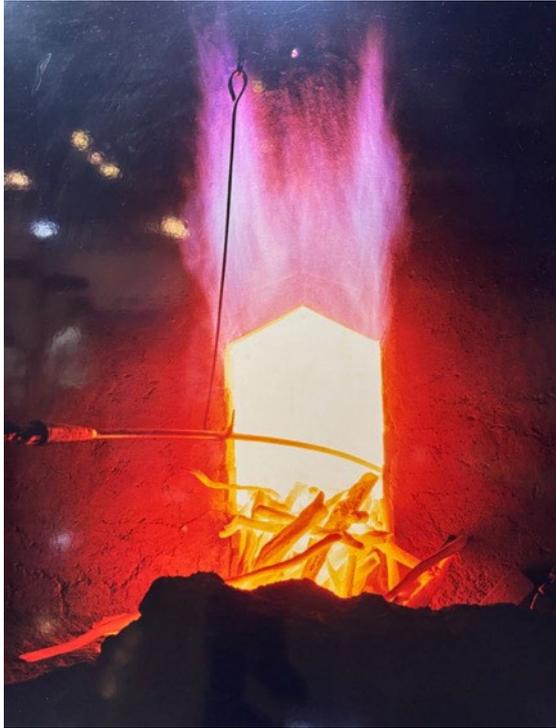
(画像出典:みなべ・田辺世界農業遺産推進協議会:FAO提出文書より)

備長炭用のうばめがしにも手の込んだ下処理



(出典:八木撮影)

手の込んだ方法で生産された貴重な炭： どうすれば正当に高く売れるのか？



炭の値段は15キロ2万円(つまり300キロで40万円:1カ月の売上)。
窯出しにも職人技が要求される。窯出しは20時間かかる。しかし右
の飲食店(東京)も色々大変みたいで炭に高いお金は払えない

(画像出典:左はみなべ・田辺世界農業遺産推進協議会FAO提出文書、右は八木撮影)

「価値」を整理した表 (Unai Pascuel et al.,(2017)を元に筆者改変) (IPBES成果)

価値の分類	農林水産業での意味
本来的価値 (Intrinsic value)	<ul style="list-style-type: none">◆ 人間や生態系そのもの◆ 存在しているだけで価値がある◆ 人間が機能を認知していないだけ
道具的価値 (Instrumental value)	<ul style="list-style-type: none">◆ おいしい食材、高機能食品、医薬品<ul style="list-style-type: none">◆ 日常生活の必需品◆ 大量生産効率化が重要◆ 産地はどこでもよい (国産なら)
関係性価値 (Relational value)	<ul style="list-style-type: none">◆ 儀礼的な食べ物・伝統産品◆ 生活の質(精神的側面)向上◆ 特定産地応援買いにつながる◆ 生産者と消費者のつながりも期待

WTO

自由貿易

經濟重視

中心的な機能
重視

道具的価値・
製品結果主義

FAO

食料安全保障

社会・文化・生
態系も重視

多面的な機能
重視

關係性価値・
プロセス重視

エクアドルのアマゾン・チャクラ

2023年世界農業遺産認定



(出典:八木撮影)



(出典:八木撮影)



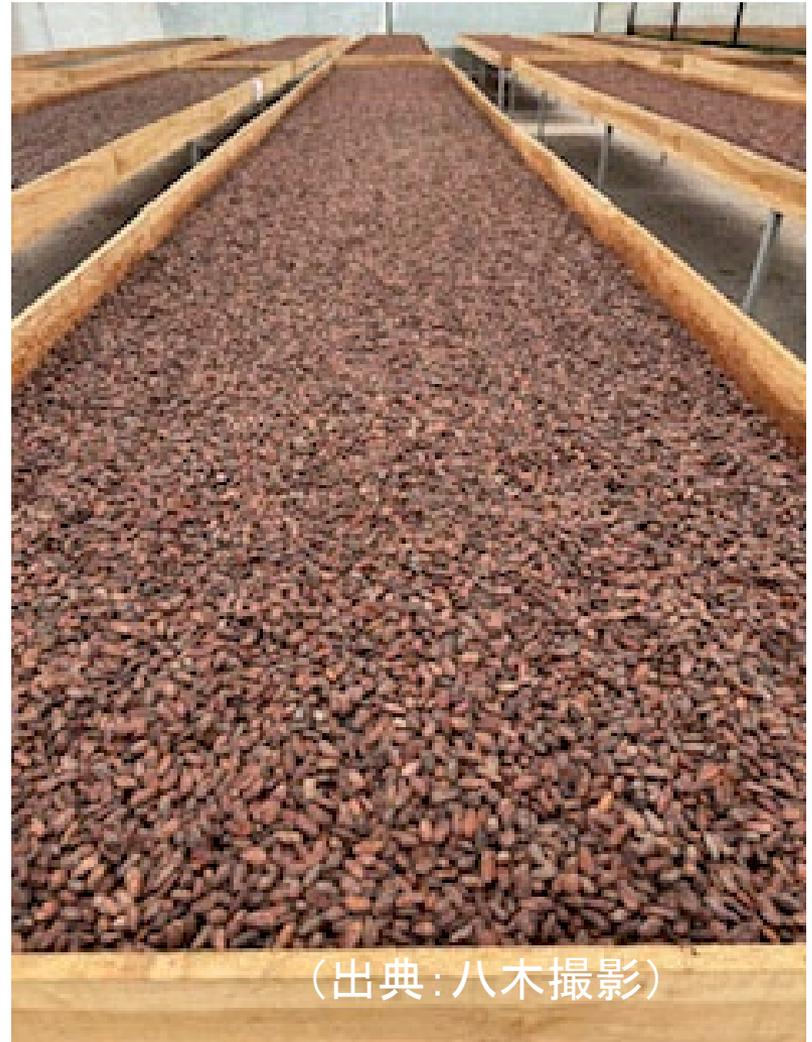


(出典:八木撮影)



(出典:八木撮影)

カカオ豆を発酵(約5日)・乾燥(約10日)
させると、チョコレートの原料に



(出典:八木撮影)

地元の農業共同組合（ウィニヤク、カヤリ、ツアツアヤクの組合）は独自にチョコレート製品を製造販売



(出典:
八木撮影)

日本のバイヤー（東京のママノチョコレートと、横浜のVANILLABEANS）が、 現地のアマゾンで植樹や啓発活動



(出典:八木撮影)

まとめ

- 世界で農業の生産地は困っている
- 製品だけでは、類似品と価格勝負になってしまう
- 製品の味は変わらなくても、作るプロセス、つまりシステムが違うことを消費者に知ってもらう
- これに向けて、産地と消費者、産地と他産地など、様々な人のつながりから生まれる「関係性価値」を大切に
- 農業遺産になることで、一般の市販品（競合製品）とは違うプラスの価値の裏付けが生まれる